

「一人ラボにおいて、デジタル技術を取り入れた欠損補綴技工 ～5年間の話～」

Matsuda Oral Appliance

松田信介

我が国において、歯科補綴物製作を担う歯科技工士の現在と未来の状況には、幾ばくかの不安を感じながらも、政府、歯科技工士関係団体、歯科技工士は、その状況の改善に取り組んでいる。一方、技工所就業者数が1人である「1人ラボ」は、日本の歯科技工所形態の大多数を占めているが、新たな教育を受ける時間や資材投資に限界があるのではと、次の一步を踏み出せない方も少なからずいると推察する。また、デジタル技工は歯冠修復技工工程だけの恩恵ではなく、欠損補綴治療に於いても多くの利点を得ることができる。本講では、演者自身も1人ラボであり、デジタル技工を取り入れた「過去・現在・未来」の話を、欠損補綴症例と共に供覧したい。